

# 菌類がつくりだす夢と幻

今野 宏

(株式会社秋田今野商店 代表取締役社長)



## 奇妙な夢を誘うチーズ

ブルーチーズは牛乳または羊乳からつくられるチーズで、青カビで熟成を行います。熟成が進むと内部に濃緑色のカビが繁殖し、切り口は大理石のような模様になります。味わいは濃厚で、かなり癖が強く、チーズ好きにとってはたまらない逸品です。

チーズを育てるカビの生育には当然のことながら空気が必要です。そのため内部にカビが繁殖するブルーチーズは原料になるカード（水を切って固めた凝乳）を型に入れ、圧縮せずカードの間に不定形の隙間を作り、その空間に青カビを繁殖させます。それだけでは酸素が充分ではないので、さらに針などで穴を開けて隙間を作り空気を送るのです。通常、青カビの仲間のほとんどは毒性を持つので食べることが出来ませんが、この発酵に使われる青カビは毒性がなく安全なものです。

世界三大ブルーチーズと呼ばれるのはフランスのロックフォール、イタリアのゴルゴンゾーラ、英国のスティルトンです。ゴルゴンゾーラとスティルトンの原料は牛乳ですが、ロックフォールは羊乳です。

スティルトンは今年9月に亡くなったエリザベス女王の好物として知られています。実はこのチーズ、食べると変な夢を見るチーズなのです。英国チーズ委員会が就寝前にスティルトンを食べるという実験を行ったところ、食べた男性と女性の多くが奇妙な夢を見たというのです。私も早速スティルトンを入手して試してみました。変な夢を見るという事は「かなり癖の

強い味に違いない」と思ったのですが、意外にもバターのようなまろやかさがあり、香りも強烈ではなく赤ワインによく合いました。

それでどんな夢を見たか。確かに変な夢でした。赤ワインが効いたのか、心地よい酔いの中で私は体が妙に軽くなって宙に浮いている感覚にとらわれました。まるで大空を飛んでいる鳥の気分です。その後しばらくの間、私は道行く人を見下ろしながら空を縦横無尽に飛びまわり、しばし心地よい空の旅を楽しんだのです。

## 催幻覚物質を持つ菌類

キノコもスティルトンの風味を醸成する青カビも、実は菌類の仲間です。キノコとカビが同じ仲間だということに意外に思うかもしれませんが、シイタケを手でちぎると上手に裂ける方向があります。裂けた面を見てみるとシイタケは繊維状の構造からできていることがわかります。この構造こそが菌糸というもので、カビが作っている構造と同じです。

さて菌類は様々な環境に生息しており、多種多様な生理活性物質を作り出す能力を持っています。人間はその能力を利用し、抗生物質をはじめとする多くの薬を開発してきました。

中には幻覚物質を持つ菌類も多くあり、世界では特定のキノコを宗教儀式などに用いていたところもあります。多くの研究者によって菌類のつくり出す不思議な物質の解明がされ、いくつかの催幻覚物質の成分が発見されています。中でも、幻覚を引き起こすキノコの成分「シロシピン」や「シロシン」は、脳内の神経伝達物

質セロトニンに作用し、わずかな量で数時間にわたり精神に大きな変容を引き起こすことが知られています。ワライタケからもシロシピンが検出されます。

ライ麦などに寄生する麦角菌は、ネズミの糞のような形と色をした菌核と呼ばれる菌糸が絡み合い密着し硬い組織（麦角）をつくります。その昔、ドイツでは「秘薬」としてこれを「エルゴット」と呼び、保存する人が大勢いました。興味をそそられたスイスの製薬会社が、どこが秘薬なのか研究したところ、この化合物の蒸気を吸引すると意識は正常なのにさまざまな幻覚を起こすことが分かったのです。麻薬のLSDは麦角の毒から半合成されたもので、僅か10万分の1gでも幻覚が生ずるといわれる史上最強の幻覚剤です。

### 聖なるキノコの正体に注目

世界には宗教儀式に用いられる「聖なるキノコ」が3種類あります。ベニテングタケ、マンネンタケ、シビレタケです。いずれも秋田県内で見かけるキノコです。古代インドの聖典「リグ・ヴェーダ」の中に、食べた人に靈感を与え、恍惚に満ちた讃歌を歌いだすと書かれている「ソーマ」。その正体は長らく謎とされてきましたが、ソーマはベニテングタケであるという発表が注目を集めました。ベニテングタケは白雪姫などの童話の挿絵に登場するメルヘンチックなキノコですが、神経系に作用する毒キノコとして知られています。このキノコには特徴的な二つの成分が含まれています。その一つ「ムッシモール」は中枢神経に作用し、食べてから30分ほどで酒に酔った状態になります。よだれが出て幻覚を起こすこともあります。死に至ることはないようです。もう一つの成分「イボテン酸」は調味料のグルタミン酸やイノシン酸の数十倍もの旨味を持っています。長野県ではこれ

を乾燥や塩蔵して食用にする地域もあります。ただ摂取量など注意が必要なため、食用に推奨されるものではありません。

このベニテングタケこそがソーマであると発表した米国のゴードン・ワッソン氏はかの有名なモルガン銀行の副頭取まで務めた金融マンでした。彼はメキシコやグアテマラでキノコを食べて幻覚状態を体験しました。1955年にメキシコ南部の小さな村を訪れた彼は、実際に「幻を呼ぶ神のキノコ」を食べたのです。キノコによって夢幻の世界に陶酔する宗教的ともいえる習わしを、現地の人に交じって体験した報告は「魔法のキノコを訪ねて」という表題でライフ誌に掲載され大きな反響を呼びました。その後、儀式に用いられていたキノコはベニテングタケではなく、やはり幻覚を起こす物質が含まれているシビレタケであることが判明しました。その後、音楽家や画家などの中にも創作の際にこのキノコを利用する人が現れました。

ワッソンは「キノコを食べて幻覚状態に入った時、砂漠の上空を飛び回りながら空飛ぶ絨毯に乗った気分であった」と述べています。彼がアラビアンナイトのアラジン、私が体一つで空を飛ぶピーターパン。スティルトンを食べてみた夢とあまりにも似ていたので驚きました。

幻覚を引き起こす物質は使い方によっては宗教の悟りに近い境地をもたらしますが、場合によっては狂気を引き起こす危険な物質でもあります。大脳の中枢に作用するこれらの物質が21世紀の医学界でどのような成長を遂げるのか楽しみであるとともに、気がかりでもあります。

ひょっとしたらスティルトンを醸し出す青カビも微弱ながら何らかの幻覚作用を持っているのかもしれませんが、そうでなければ、英国チーズ委員会が就寝前にスティルトンを食べた人の多くが奇妙な夢を見たなどとは発表しないでしょうから。